

【実践報告】

「学校教育の体験活動（中・高）」の報告

広島文教大学教育学部教育学科

教授 黒木 晶子

1 はじめに

本授業は、1年次の「生徒の理解」における学修を発展させる科目であり、3年次以降の「教育実習」の導入としても位置付けられる。本授業の目的は、中学校・高等学校教育の実際を体験的に理解し、教員に求められる能力や適性を意識しながら、自身の課題を自覚することである。さらに、教育実践及び教育実践研究に必要な基礎的な能力と態度を養い、教職への理解を深めるとともに、教育者としての愛情や使命感を育むことを目指している。

以上の目的を達成するために、本授業では7種類の活動を実施する。授業の運営にあたっては、教育学部教育学科の専任教員及び教職センター特任講師が連携し、今年度は国語教育コース教員の黒木・橋村、英語教育コース教員の武田・上利、教職センター特任講師の小川の計5名が担当した。

2 2024年度の授業概要

(1) 目的

- 「生徒の理解」で得た学校や教育に関する知識、理解をより具体的な視点から深める。
- 自らの体験を振り返り、その体験を抽象化し言語化する。
- 日本の学校教育が抱える諸課題を見据え、その解決へ向けて努力する態度を養う。
- 中学校・高等学校教育の実際を体験的に理解する。

(2) 授業で取り組んだ活動

活動①：「私の育った学校」（個人の活動）

目 標：「学校とは何か」を具体的に理解する。

内 容：「私の育った学校」

各自の出身校（中学校または高等学校）について、校訓、教育方針、規模、組織などを調査し、学校のホームページを活用しながら概要を整理し発表した。さらに、自身が体験した指導、学校行事に関して評価できる点、評価できない点について、その具体的な理由とともに発表した。

活動②：「日本の教育が直面する課題」（グループの活動）

目 標：日本の学校が直面する課題を指摘し、その解決のための方策を討議する。

内 容：各グループで日本の学校が直面する課題（いじめ、不登校、体罰、働き方改革など…）について討議した。

活動③：観察実習の事前学修

目 標：観察実習の進め方について学ぶ。

内 容：観察実習の心得、授業観察の要点、授業観察記録の作成方法について学んだ。

活動④：観察実習の事後学修

目 標：観察実習で学んだことを振り返る。

内 容：観察実習で学んだことを観察実習報告書としてまとめ、その後、報告書の内容を基にグループ、クラス全体で討議した。また、今後の実習においても必要となる、お礼状の書き方について学んだ。

活動⑤：観察実習（学外での体験活動）

内 容：今年度は以下の通り実施した。

第1回観察実習：広島市立広島中等教育学校（2024年10月30日）

○コース（国語教育コース、英語教育コース）に分かれて国語または英語の授業を2時間、あるいは国語または英語の授業を1時間、社会の授業を1時間観察した。

○中等教育学校の先生方の講話、質疑応答

第2回観察実習：広島文教大学附属高等学校（2024年11月19日）

○コース（国語教育コース、英語教育コース）に分かれて国語または英語の授業を2時間観察した。

○高等学校の先生方の講話、質疑応答

活動⑥：ボランティア活動（学外での体験活動）

内 容：各自が中学校・高等学校での学校支援ボランティア活動に参加した。

活動⑦：校種間交流会

内 容：前期1回、後期1回の計2回、初等教育専攻と合同で校種間交流会を実施した。交流会では、観察実習及びボランティア活動に関する体験を共有し、意見交換を行った。

3 成果と課題

本授業は、1年次の「生徒の理解」の学修を発展させ、将来の教師としての資質を養い、体験を通して学校の実態についての理解を深めることを目的としている。

活動①では、「私の育った学校」をテーマに、これまで自身が学んできた学校（中学校・高等学校）の校訓や教育方針、規模、組織について調査・発表することを通して、様々な学校のあり方について学んだ。活動②では、「日本の教育が直面する課題」をテーマに、今日的な教育課題の現状を共有し、その解決への展望を議論した。学生たちは各課題に真摯に向き合い、活発な意見交換を行った。

昨年度に引き続き、今年度も学外での体験活動である観察実習（活動⑤）及びボランティア活動（活動⑥）を実施した。これに伴い、事前・事後学修（活動③・④）を行い、観察実習の心得、授業観察の要点、授業観察記録の作成方法、観察実習報告書のまとめ方、お礼状の書き方について学んだ。学外活動の後には、初等教育専攻の幼児教育コース及び児童教育コースの学生との校種間交流会（活動⑦）を実施し、異なる校種における教育の特徴や課題について意見交換を行う機会を得た。さらに、学外での観察実習において、中学校及び高等学校の先生方から直接授業や校務に関するお話を伺うことができたことは、学生たちが教員の仕事についての理解を深める貴重な機会となった。

今年度は2校で観察実習を実施した。実習の受入れにご協力いただいた学校の皆様に深く感謝申し上げるとともに、学びの充実を図るため、今後授業計画の改善に取り組んでいきたい。今年度は、観察実習が後期のみの実施となったが、学生たちが早い段階で教育現場を経験できるよう、次年度は前期・後期の両方での実施を目指す。また、初等教育専攻との連携を強化し、学外での体験活動及び事前・事後学修の更なる充実を図っていく。